19. 安静時および運動負荷時の心筋脂肪酸代謝：^{123}I-BMIPP 経時的心筋 SPECT による検討

野村　新之　竹田　寛　松村　要
北野外紀雄　中川　毅　（三重大・放）

正常人 16 例において安静時および運動負荷の経時的 ^{123}I-BMIPP SPECT を施行し，wash out ratio (WR) と運動負荷量との関係について比較検討した．group A (11 例) は軽度および最大運動負荷後の左室壁の WR を算出した．group B (5 例) は最大運動負荷のみとし同様に WR を算出した．軽度および最大運動負荷ともに負荷量が増えるにしたがい WR は増大し，一定の負荷量までは有意な相関関係を示した．一方，Net double product が 300 ($\times 10^3$ mmHg/min) 以上の運動負荷を与えるとそれ以上の WR の増加はみられなかった．ヒト正常心筋において BMIPP は心仕事量に応じて代謝されていると考えられ，それが十分な変化を示すほどの運動負荷を与えた上で虚血等の病変部を評価する必要があると思われた．

20. ^{111}In-白血球シンチにて集積を認めた術後膿瘍の 2 例

那須　玲子　板垣　康
（藤枝市立総合病院・放診治）
井尻理恵子　大出　泰久　横山日出太郎
金丸　仁　（同・外）

Thakur らによって開発された ^{111}In 標識白血球による炎症シンチグラフィが炎症巣の描出に，より特異的な検査であるとして用いられるようになってきた．今回われわれは術後発熱が持続し画像上膿瘍が疑われたが，肺炎や胆道感染等の合併も否定し得なかった症例に炎症シンチグラフィを施行し，炎症巣の描出ができ，臨床的に有用であったと考えられたため，若干の文献的考察を加えて報告した．

21. 組織型別の，悪性リンパ腫への ^{67}Ga-citrate 集積に関する検討

大野　和子　鈴木賢一郎　梶原　顕彦
具志堅益一　堀　浩　村田　勝人
伊藤　要子　綾川　良雄　宮田　伸樹
（愛知医大・放）
川島　定夫　東　直樹　鎌田　貴夫
（同・中放）
大圓　修身　（同・二内）

非ホジキンリンパ腫の患者 40 名を対象にして，治療開始前の ^{67}Ga シンチグラフィの集積結果と病理分類 Working Formation (WF) 改訂版との関連性について検討した．Follicular type が Diffuse type に比して低い傾向を示し，特に WF 分類で low grade に属する follicular small cleaved sell と follicular mixed の集積率が低下していた．また CT 画像上の病巣の大きさと，^{67}Ga-citrate 集積の強さとの関係も検討したが，いずれの組織型でも両者の間に関連性は見られなかった．

22. ヨード大量療法における小核試験を用いたリンパ球の放射線障害に関する検討

渡辺　直人　瀬戸　光　清水　正司
柿下　正雄　（富山医薬大・放）
二谷　立介　（同・基放）
横山　邦彦　絹谷　清剛　道岸　隆敏
利波　紀久　（金沢大・核）

放射線の影響を評価するために，小核試験を用いてリンパ球の放射性組織障害を検討した．甲状腺分化癌と診断された術後患者 25 名である．^{131}I (3.7 GBq) 投与前および投与後 1 週間に患者より採血，小核試験を施行した．投与後 3 か月以上経過した 3 名より採血し，in vitro で照射を行い in vivo での照射量を推定した．二核細胞 500 個当たりの小核細胞数は，ヨード投与前では 5.4±1.4 (平均±標準偏差)，1 週間後 15.7±2.7 で有意の増加を認めたが，軽度であった．In vitro 照射で得られた値より，in vivo での照射量は約 0.5 Gy 程度と推定された．放射性ヨード大量療法におけるリンパ球への放射線の影響は小さいと考えられた．

Presented by Medical*Online